

	課題分析	授業改善策
国語	真面目に学習に取り組む意欲はあるが、基礎力の定着には課題がある。漢字力、語彙力、表現力、読書量については個人差が大きく、全体の読解力と文章表現力の向上が課題である。	基礎学力を定着させるために漢字テストを継続し、eライブラリによる自主学習も定着させる。文章の読み取りの着眼点の確認、論理的な文章から得た考えと根拠の文章化を習慣化し、スピーチやビブリオバトル、短歌や俳句づくりなど、計画的に話す書く作業も取り入れ、国語を楽しむ姿勢を養う。
社会	視聴覚教材の活用などにより、教科に対して興味・関心をもち、説明を聞いてメモをとるなど意欲的に取り組む姿勢が見られる。その一方で、学習内容を身近な問題として捉えることができず、学習に意欲をもてない生徒も見られる。また、その日のうちに復習する習慣がなく、学習内容がなかなか定着しない面がある。基礎的語句の暗記にとらわれ、流れを把握することや本質的に理解し応用することに苦手意識をもっている生徒が多い。	教科に対する意欲を高めるために、話題になっている政治問題や身近に起こる経済問題などを生徒に投げかけ、どういった理由からその事象が起こるのかということを考え、探究させて主体的な学習に取り組ませる。また、小テストなどを実施し、「わかる」「できる」体験を通して、学習に対する自信をもたせ、意欲の向上に繋げていく。ワークブック等を活用して振り返り学習を継続的に実施し、復習の習慣化を促す。定期考査の出題方法を工夫し、暗記だけの学習にならないようにする。
数学	問題文を図や表、グラフなどに表して考えることを行っている生徒が全体の半数程度である。これは文章題などの応用問題において大切な思考過程である。また、言語活動が不十分と答えた生徒の割合が4割近くあった。反復練習は習熟には必須であり、それには取り組んでいるが、できない問題を重点的に行う、という姿勢が不足している生徒が4割程度いることが確認された。	文章題の取り組み方として、立式に至るまでの経緯に目を向け、それを説明しあうなどの学習活動を取り入れる。また、反復練習の進め方を具体的に指示し、効率的に学習する姿勢を身に付けさせる。具体的には、一通り解く、間違えた問題だけを再度解く、の流れを繰り返す。eライブラリによる課題も取り入れ、反復練習するための環境を活用する姿勢を育成する。
理科	授業に意欲的に取り組み、特に観察・実験の授業を積極的に行っている。また、基礎的な知識は定着している。課題としては、科学的な考察や、論理的にまとめる力が不足していることが挙げられる。	科学的な考察について、観察や実験結果の考察を自らまとめることや、グループなどで意見交換を行い、他の意見の良いところを取り入れ、発表する授業を行っていく。また、論理的にまとめる力については、タブレットを用いて、自分の考えをまとめ表現させ評価する活動を行う。
音楽	全学年を通じて、実技に対する意欲は十分にある。小学校では合唱や器楽など実技中心の授業となるせいか、表現領域において基礎となる読譜力を欠く生徒は相変わらず多い。また、鑑賞領域における批評や感想で、語彙力・表現力が乏しい生徒が多く、説得力のある文章を組み立てることが苦手である。	1年：複数の小学校から生徒が集まるため読譜能力に差異があることから、各自が身に付けた「基礎力の再確認」を行い、オリジナル教材「楽譜講座」を使用しながら音符・休符などの基本的な記号を教え確認する。 2年：昨年度の授業で読譜力は少しずつ身につけてきた。既習曲に触れながら、具体的に発せられた音と楽譜の関係を結びつけられるような指導を行う。 3年：授業アンケートの反省を生かし、積極的にグループ活動を取り入れ、お互いの感じ取りや思いを共有できる授業を工夫する。 全学年：歌唱・器楽の実技だけでなく、タブレットを使用した創作など、様々な形のアプローチで音楽の楽しさを味わえる教材を開発する。また音楽用語の意味を知り、「音楽的な見方・考え方」という視点で音楽用語を自らの批評や感想に活用できるように支援する。

美術	<p>学年を通じて、制作に対しての意欲は高い。小学校のころからすでに苦手意識を持ってしまった生徒がみられた。</p> <p>また制作において発想力に乏しく、タブレットで行う資料集め等において、参考の資料をそのまま模倣してしまう生徒が目立つ。</p> <p>同じく自身の作品の工夫点を振り返り、言語化する力が弱い部分が気になる。</p>	<p>全学年を通して、単元前に目的と身に付けてほしい力を可視化する。</p> <p>ただ制作の手順を伝えるのではなく、工夫するポイントなど、曖昧で抽象的な要素を、過去の作品を例に具体的に解説する。</p> <p>また、タブレットの資料はあくまで資料であり、そのまま模倣することは、自ら主題を設定し、制作するという美術の創造活動の意図と違うことを伝えていく。</p> <p>作品の振り返りについても、単元の終わりに、互いに作品を鑑賞する時間を設け意見交換を行っていく。</p>
保健体育	<p>学年によって差はあるが、意欲的に取り組もうとする生徒と運動嫌いから諦めている生徒二極化が起きつつある。特に下級生を中心に強度の高い運動を継続することができず、体力向上と粘り強く運動に取り組む姿勢に課題がある。また男女共習により、運動能力の差も大きくなっている。体力や技能の向上に向けて自身と向き合うことや互いに高め合うことが課題。</p>	<p>体力向上と粘り強く運動に取り組む姿勢を高めるために行っているサーキットトレーニングを正しい姿勢でそろえて行うよう呼びかけるとともに運動量の確保を心がける。授業内容に応じて、異なる種目を入れることで飽きさせない。</p> <p>男女共習の授業を行い、性差を理解するとともに、競技の特性に触れ、体力や技能を高めるために教え合うことのできる授業を展開する。個人やチームの課題に対して、生徒が自ら課題解決に向けて取り組むことができる授業を展開する。また個の能力に応じて教員から指示や助言、サポートをおこなう。</p>
技術・家庭	<p><技> 身近な生活や社会における困りごとや問題を見出すことが苦手である。また、授業で学習した内容を作品に反映することが難しい。</p> <p><家>与えられた作業に関しては意欲的であるが、それを発展させ作品等に生かすことが難しい。</p>	<p><技> 問題の発見ができるように、調査活動やグループ学習を充実させる。作品づくりに入る前に小テストを実施し、作品づくりに必要な知識の定着を図る。</p> <p><家>身に付けた知識を作品や実生活で活用するために、具体例の提示や個々の力量や個性に応じたアドバイス等をする。</p>
外国語(英語)	<p>授業中は、ペア活動やグループ活動に積極的に取り組む生徒が多い。一方で、それぞれの活動が定着につながらないこと、個々の生徒の力の差が大きく二極化していることが課題である。インプット量が不足していることがアウトプットにつながらない要因である。</p>	<p>全学年、定期的に行う単語テストで語彙力をつける。特に重要な単語や表現は読める、書ける、聞ける、そして使えるようになるまで繰り返し授業内の活動で取り入れる。ALTとの会話を通して、「わかった、通じた」という喜びや楽しさを自信や学習する意欲につなげていく。2年生でのGTEC、毎年実施するESAT-Jでその成果や課題を確認できるようにする。</p>